

# 大学生のキャリア成熟に関する研究

— キャリア・レディネス尺度 (CRS) の信頼性と妥当性の検討 —

坂柳 恒 夫

(職業指導教室)

## A Study on Career Maturity in University and College Students

— Examination of Reliability and Validity of Career Readiness Scale (CRS) —

Tsuneo SAKAYANAGI

(Department of Career Guidance)

### 問題と目的

職業選択や就職の問題は、現代の大学生にとって、看過することのできない重要課題の1つである。近年、長引く不況から大学卒業者の就職をめぐる状況は、非常に厳しいものであることがマスコミなどにおいて伝えられている。こうした状況の中で、大学生は、自己の職業選択や就職、さらに人生の生き方について、どのように考えているのだろうか。就職難の状況下では、ややもすると眼前に控えた就職だけに関心が集中してしまいがちであるが、就職という一時点だけにとらわれるのではなく、自己のキャリア（生涯進路）という長い線と考え、先をみつめて進んでいく姿勢が大切になる。換言すれば、大学生1人ひとりが長いキャリアを見据えながら、自己の意志と責任のもとに、職業や生き方を選択していく「自律性」が要請されているといえる。しかし、大学生の現状をみると、これまでの中学校から高等学校、さらに大学に至る進路選択の過程において、職業や生き方の問題とのかかわりが必ずしも十分でない環境の中で育ったこともあり、職業や生き方の問題に対峙したときに支障をきたす者も少なくない（吉谷, 1990）。

学校における進路指導（career guidance）は、児童・生徒・学生のキャリア成熟の促進を目指した教育活動であるといわれている（Herr & Cramer, 1988）。キャリア成熟とは、Crites (1973) によって最初に使用された“career maturity”の訳語であり、今日の進路指導における重要概念の1つとなっている（日本の中学校・高等学校における進路指導では、進路成熟ともいわれている）。Super (1984) によれば、「キャリア成熟とは、キャリア発達課題へ取り組もうとする個人の態度的・認知的レディネスである」と定義される。また、King (1989) は、「キャリア成熟とは、知見の広い、年齢にふさわしいキャリア決定をするため

の個人のレディネスである」と定義している。要するに、キャリア成熟とは、「キャリアの選択・決定やその後の適応への個人のレディネスないし取り組み姿勢である」といえる（坂柳, 1991）。

進路指導の目標達成には、まずキャリア成熟の実態を的確に把握しておくことが必要である（坂柳, 1981）。大学生のキャリア成熟を測定する場合の留意点の1つは、「キャリア」の意味内容をどのように解するかということである。最近のキャリアの概念は、個人の時間的経過や動態的過程の強調だけでなく、視野範囲においても、「職業」という視点から「人生・生涯」という視点にまで拡大して、より包括的になっている（Gysbers, 1975; Super, 1986; Herr & Cramer, 1988）。したがって、大学生のキャリア成熟の測定にあたっては、職業面だけでなく、人生面も視野範囲に入れておくことが必要であると考えられる。

以上の点を踏まえて、大学生が自分のこれからの人生・生き方、職業選択・就職などについて、どの程度成熟した考えを持っているのかを測定するキャリア成熟尺度の作成を試みた。本研究の主な目的は、作成された「キャリア・レディネス尺度（Career Readiness Scale: 略称CRS）」について、その信頼性と妥当性を検討することである。

### 研究の方法

#### 1. キャリア・レディネス尺度 (CRS) の構成

##### (1) キャリアの系列

大学生のキャリア・レディネス尺度の構成にあたっては、キャリア概念の多義性や広がりなどを踏まえて、①人生キャリア・レディネス（主に、人生や生き方への取り組み姿勢）、②職業キャリア・レディネス（主に、職業選択と職業生活への取り組み姿勢）、の2系列（方向）のキャリア・レディネスを設定した（坂柳, 1990, 1991）。

＜表1＞ キャリア・レディネス尺度（CRS）の構成

領域	系列	人生キャリア・レディネス：LCR (Life Career Readiness)	職業キャリア・レディネス：OCR (Occupational Career Readiness)
キャリア関心性 (Career Concern)	①人生キャリア関心性：LCC (Life Career Concern)	④職業キャリア関心性：OCC (Occupational Career Concern)	
	<Appendix 1>の項目番号 1, 2, 3, 10, 11, 12, 19, 20, 21 (計9項目)	<Appendix 2>の項目番号 1, 2, 3, 10, 11, 12, 19, 20, 21 (計9項目)	
キャリア自律性 (Career Autonomy)	②人生キャリア自律性：LCA (Life Career Autonomy)	⑤職業キャリア自律性：OCA (Occupational Career Autonomy)	
	<Appendix 1>の項目番号 4, 5, 6, 13, 14, 15, 22, 23, 24 (計9項目)	<Appendix 2>の項目番号 4, 5, 6, 13, 14, 15, 22, 23, 24 (計9項目)	
キャリア計画性 (Career Planning)	③人生キャリア計画性：LCP (Life Career Planning)	⑥職業キャリア計画性：OCP (Occupational Career Planning)	
	<Appendix 1>の項目番号 7, 8, 9, 16, 17, 18, 25, 26, 27 (計9項目)	<Appendix 2>の項目番号 7, 8, 9, 16, 17, 18, 25, 26, 27 (計9項目)	

## (2) レディネスの構成要素

これまでのキャリア成熟の尺度（竹内・坂柳, 1982, 1983; 坂柳・竹内, 1985, 1986; 坂柳, 1992, 1993）を参考にして、次の3つの態度特性が設定された。

- ① 関心性 (concern) ……自己のキャリアに対して、積極的な関心をもっているか。
- ② 自律性 (autonomy) ……自己のキャリアへの取り組み姿勢が、自律的であるか。
- ③ 計画性 (planning) ……将来展望をもち、自己のキャリアに対して、計画的であるか。

大学生のキャリア成熟度を測定するために作成されたキャリア・レディネス尺度は、＜表1＞に示した6つの下位尺度で構成されている。なお、＜Appendix 1＞に人生キャリア・レディネスの測定尺度の項目内容を、＜Appendix 2＞には職業キャリア・レディネスのそれを示した。

## (3) 回答の選択肢

尺度は、各項目とも「5：よくあてはまる」、「4：ややあてはまる」、「3：どちらともいえない」、「2：あまりあてはまらない」、「1：全くあてはまらない」という5段階評定法を用い、5点から1点までの得点（逆転項目は1点から5点の得点）が与えられ、各領域のキャリア・レディネス（下位尺度）の合計得点が算出されるようになっている。したがって、各下位尺度の得点範囲は、9～45点に分布し、中間点は27点となっている。この得点が高いほど、当該領域のキャリア・レディネス、すなわちキャリア成熟度が高いことを意味している。

## 2. 調査の対象・時期

調査は、大学生男子262名、大学生女子198名、短大生（女子）281名の総計741名を対象にして、1994（平成6）年6月に実施された。

また、再検査による安定性（信頼性）を検討するた

め、大学生141名、短大生92名を対象にして、3週間の間隔をおいて2度の調査が実施された。

## 3. 分析方法

キャリア・レディネス尺度（CRS）の分析にあたっては、次のことに基準をおいた。

## (1) CRSの内的整合性

CRSの内的整合性（等質性）を項目水準で検討するために、各下位尺度内の9項目について、主成分分析を行う。また、各下位尺度内の9項目におけるそれぞれの項目と残り8項目の尺度得点の間の項目-全体相関を求める。

次に、CRSの内的整合性を尺度水準で検討するために、Cronbachの標準化された $\alpha$ 係数を算出する。

## (2) CRSの安定性

CRSの安定性（信頼性）を再検査法により検討する。この再検査法では、1回目と2回目（3週間後）との尺度得点の関連をみるために、安定性係数（相関係数）を算出する。

## (3) CRSの因子的妥当性

CRSにおいて、人生・職業各系列ごとに、関心性、自律性、計画性の3領域に分類したが、このことの妥当性を検討するために各系列27の質問項目について、大学生男子、大学生女子、短大生の3群別に相関係数を求め、主因子法による因子分析を行う。

## 結果と考察

## 1. CRSの内的整合性の検討

## (1) 項目水準でのCRSの検討

最初に、構成されたキャリア・レディネス尺度（CRS）の内的整合性（等質性）について、主成分分析および項目-全体（I-T）相関の結果を基にして、項目水準で検討を行う。

＜表2＞ 人生キャリア・レディネス尺度（LCRS）における下位尺度項目の主成分負荷量および各項目得点と下位尺度得点との相関係数

下位尺度とその構成項目		全 体		男子大学生		女子大学生		短期大学生	
		主成分	I-T相関	主成分	I-T相関	主成分	I-T相関	主成分	I-T相関
人生キャリア 関心性 (LCC)	LCC1	.678	.569	.732	.644	.693	.570	.611	.482
	LCC2	.682	.598	.744	.678	.585	.495	.659	.563
	LCC3	.702	.593	.743	.651	.563	.441	.720	.600
	LCC4	.615	.512	.626	.538	.629	.508	.586	.470
	LCC5	.634	.538	.672	.588	.608	.507	.591	.489
	LCC6	.741	.647	.811	.742	.707	.599	.681	.566
	LCC7	.750	.651	.752	.665	.757	.640	.747	.640
	LCC8	.611	.499	.695	.593	.592	.465	.510	.396
	LCC9	.796	.698	.831	.754	.752	.633	.784	.666
人生キャリア 自律性 (LCA)	LCA1	.578	.455	.615	.504	.574	.429	.526	.401
	LCA2	.638	.519	.692	.586	.529	.407	.628	.494
	LCA3	.561	.438	.649	.536	.430	.324	.528	.390
	LCA4	.592	.445	.673	.532	.645	.486	.489	.344
	LCA5	.755	.611	.805	.685	.679	.490	.754	.604
	LCA6	.508	.399	.501	.410	.510	.382	.522	.401
	LCA7	.570	.457	.607	.516	.564	.412	.533	.417
	LCA8	.745	.598	.758	.627	.698	.516	.764	.615
	LCA9	.700	.578	.734	.640	.602	.443	.717	.588
人生キャリア 計画性 (LCP)	LCP1	.748	.651	.803	.729	.785	.696	.638	.509
	LCP2	.692	.586	.731	.642	.695	.592	.633	.504
	LCP3	.596	.481	.639	.537	.719	.612	.424	.309
	LCP4	.709	.600	.715	.619	.736	.634	.693	.556
	LCP5	.688	.577	.736	.645	.686	.577	.638	.494
	LCP6	.580	.470	.665	.570	.449	.347	.573	.436
	LCP7	.659	.542	.686	.585	.695	.586	.598	.457
	LCP8	.618	.501	.639	.536	.593	.466	.624	.483
	LCP9	.679	.571	.734	.646	.613	.495	.652	.524

(注) 相関係数は、すべて  $P < .001$  で有意である。

〔人生キャリア・レディネス尺度〕

人生キャリア・レディネス尺度における下位尺度項目の主成分負荷量および各項目得点と下位尺度得点との相関係数を示したものが、＜表2＞である。

分析対象者全体についてみると、第1主成分の負荷量は、人生キャリア関心性(LCC)尺度では、.611～.796、人生キャリア自律性(LCA)尺度では、.508～.755、人生キャリア計画性(LCP)尺度では、.580～.748となっており、各下位尺度の項目はいずれも高い値が得られた。また、項目-全体相関についても、人生キャリア関心性(LCC)尺度では、.499～.698、人生キャリア自律性(LCA)尺度では、.399～.611、人生キャリア計画性(LCP)尺度では、.470～.651となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。

次に、大学生男子、大学生女子、短大生の3群ごとに結果をみると、第1主成分の負荷量は、LCC尺度では、.626～.831、.563～.757、.510～.784（大学生男子、大学生女子、短大生の順、以下同じ）、LCA尺度では、.501～.805、.430～.698、.489～.764、LCP尺度では、.639～.803、.449～.785、.424～.693、であり、各群における項目はいずれも高い負荷量が示されている。また、項目-全体相関は、LCC尺度では、.538～.754、.441～.640、.396～.666（大学生男子、大学生女子、短大生の順、以下同じ）、LCA尺度では、.410～.685、.324～.516、.344～.615、LCP尺度では、.536～.729、.347～.696、.309～.556と、いずれも高い正の相関が得られた。

〈表3〉 職業キャリア・レディネス尺度（OCRS）における下位尺度項目の主成分負荷量および各項目得点と下位尺度得点との相関係数

下位尺度とその構成項目		全 体		男子大学生		女子大学生		短期大学生	
		主成分	I-T相関	主成分	I-T相関	主成分	I-T相関	主成分	I-T相関
職業キャリア 関心性 (OCC)	OCC1	.716	.597	.759	.656	.679	.544	.681	.557
	OCC2	.653	.556	.688	.595	.577	.471	.660	.566
	OCC3	.632	.506	.602	.482	.604	.470	.699	.576
	OCC4	.628	.522	.662	.563	.559	.454	.627	.520
	OCC5	.661	.566	.635	.542	.664	.567	.698	.604
	OCC6	.648	.530	.725	.620	.659	.522	.551	.438
	OCC7	.669	.556	.687	.583	.642	.515	.676	.560
	OCC8	.562	.436	.595	.480	.560	.416	.556	.427
	OCC9	.796	.691	.779	.679	.836	.731	.790	.684
職業キャリア 自律性 (OCA)	OCA1	.771	.622	.817	.677	.681	.508	.772	.639
	OCA2	.493	.404	.581	.499	.419	.340	.439	.346
	OCA3	.345	.275	.343	.282	.347	.270	.346	.270
	OCA4	.399	.281	.366	.272	.273	.175	.520	.366
	OCA5	.782	.631	.804	.678	.722	.551	.801	.642
	OCA6	.576	.442	.636	.504	.616	.460	.491	.368
	OCA7	.712	.561	.701	.548	.715	.553	.725	.580
	OCA8	.779	.647	.787	.679	.769	.607	.779	.640
	OCA9	.702	.544	.750	.617	.711	.516	.644	.484
職業キャリア 計画性 (OCP)	OCP1	.762	.666	.799	.722	.784	.692	.689	.559
	OCP2	.716	.598	.768	.675	.696	.567	.668	.520
	OCP3	.606	.484	.641	.534	.666	.535	.501	.367
	OCP4	.750	.631	.798	.702	.691	.561	.719	.571
	OCP5	.716	.599	.748	.653	.690	.563	.698	.553
	OCP6	.626	.507	.680	.579	.613	.493	.574	.428
	OCP7	.532	.415	.573	.469	.489	.384	.510	.365
	OCP8	.648	.541	.690	.599	.670	.602	.533	.400
	OCC9	.514	.420	.548	.461	.530	.448	.457	.344

(注) 相関係数は、すべて  $P < .001$  で有意である。

#### 〔職業キャリア・レディネス尺度〕

〈表3〉は、職業キャリア・レディネス尺度における下位尺度項目の主成分負荷量および各項目得点と下位尺度得点との相関係数を示したものである。

対象者全体についてみると、第1主成分の負荷量は、職業キャリア関心性(OCC)尺度では、.562～.796、職業キャリア自律性(OCA)尺度では、.345～.782、職業キャリア計画性(OCP)尺度では、.514～.762と、いずれも高い値を示している。また、項目－全体相関の結果をみると、職業キャリア関心性(OCC)尺度では、.436～.691、職業キャリア自律性(OCA)尺度では、.275～.647、職業キャリア計画性(OCP)尺度では、.415～.666であり、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。

次に、大学生男子、大学生女子、短大生の3群別の結果をみると、第1主成分の負荷量は、OCC尺度で

は、.595～.779、.560～.836、.551～.790（大学生男子、大学生女子、短大生の順、以下同じ）、OCA尺度では、.343～.817、.273～.769、.346～.801、OCP尺度では、.548～.799、.489～.784、.457～.719となっており、いずれも高い負荷量が示されている。また、項目－全体相関の結果は、OCC尺度では、.480～.679、.416～.731、.427～.684（大学生男子、大学生女子、短大生の順、以下同じ）、OCA尺度では、.282～.679、.175～.607、.270～.642、OCP尺度では、.461～.722、.384～.692、.344～.571と、一部に低い数値もみられるが、全体的にはいずれも正の高い相関を示しているといえる。

#### (2) 尺度水準での検討

次に、CRSの内的整合性を尺度水準で検討するために、Cronbachの標準化された $\alpha$ 係数を求めた。結果は、〈表4〉に示すとおりである。

＜表4＞ キャリア・レディネス尺度（CRS）の信頼性（Cronbachのα係数）

		全 体	大学生 男子	大学生 女子	短大生
人 生 C R	LCC	.863	.893	.833	.834
	LCA	.809	.848	.757	.788
	LCP	.841	.874	.743	.788
	総合	.918	.939	.842	.896
職 業 C R	OCC	.841	.856	.823	.838
	OCA	.803	.827	.767	.798
	OCP	.832	.866	.831	.773
	総合	.911	.926	.899	.902

〔人生キャリア・レディネス尺度〕

人生キャリア・レディネス尺度は、対象者全体では.809（LCA）～.863（LCC）、大学生男子では.848（LCA）～.893（LCC）、大学生女子では.743（LCP）～.833（LCC）、短大生では.788（LCA、LCP）～.834（LCC）と、満足すべきα係数が得られた。また、人生キャリア・レディネスの総合尺度（27項目の合計）では、全体.918、大学生男子.939、大学生女子.842、短大生.896と、高い信頼性係数が得られた。

〔職業キャリア・レディネス尺度〕

職業キャリア・レディネス尺度は、対象者全体では.803（OCA）～.841（OCC）、大学生男子では.827（OCA）～.866（OCC）、大学生女子では.767（OCA）

～.831（OCP）、短大生では.773（OCP）～.838（OCC）と、満足すべき値が得られた。また、職業キャリア・レディネスの総合尺度（27項目の合計）では、全体.911、大学生男子.926、大学生女子.899、短大生.902と、高いα係数が示されている。

以上の結果から、CRSを構成している下位尺度は、内的整合性の観点より、一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度であるといえる。

2. 再検査によるCRSの信頼性

CRSの安定性（信頼性）を再検査法によって検討する。＜表5＞は、CRSの下位尺度および総合尺度ごとに、1回目時、2回目時各々の平均得点（M）、標準偏差（SD）、そして、1回目と2回目との間の得点の安定性係数を、大学生・短大生の2群に分けて示したものである。再検査法によって信頼性を検討する場合、着目すべき点は次の2点になる。まず第1点は安定性係数の指標としての相関係数である。相関係数が高いということは、1回目に高得点であった者は2回目にも高得点であり、1回目に低得点であった者は2回目にも低得点であることを示し、相関係数が高ければ、その尺度の安定性（信頼性）が高いということになる。第2点は分布の型、とりわけ標準偏差についてである。標準偏差に変化がみられないということは、たとえ平均得点に変化していても、分布が平行移動していることを示し、標準偏差の変化が小さく、相関係数が高ければ分布に変化がほとんどない、換言すれば安定性が高いと判断される。

＜表5＞ キャリア・レディネス尺度の安定性（再検査信頼性）

		大 学 生 (N=141)					短 大 生 (N= 92)				
		1回目		2回目		安定性	1回目		2回目		安定性
		M	SD	M	SD	r	M	SD	M	SD	r
人 生 C R	LCC	31.65	8.01	32.26	7.46	.789	30.52	5.95	29.54	6.39	.815
	LCA	34.65	5.65	35.00	5.47	.834	32.50	4.35	33.22	4.38	.763
	LCP	27.40	7.58	26.96	7.49	.819	27.71	5.02	26.58	5.17	.758
	総合	93.70	18.77	94.22	18.19	.908	90.73	12.50	89.34	12.96	.835
職 業 C R	OCC	33.55	6.88	34.09	7.05	.878	33.80	5.36	34.57	5.70	.865
	OCA	35.70	5.28	36.28	4.89	.850	32.96	4.65	34.12	4.55	.774
	OCP	28.13	7.36	28.13	7.46	.864	28.99	5.58	29.76	5.79	.791
	総合	97.38	17.12	98.50	16.78	.897	95.70	12.93	98.45	13.79	.864

さて＜表5＞をみると、CRSを構成している下位尺度は、大学生・短大生いずれの場合も、高い安定性係数（相関係数）を示している。また、各下位尺度および総合尺度における2回の平均得点、標準偏差は、大学生・短大生いずれの場合もほぼ近似している。

このことから、CRSの安定性は十分に高いことが確認されたといえる。

3. CRSの因子的妥当性

CRSは、人生と職業の2系列のキャリア・レディネスが、関心性、自律性、計画性の3特性の下位尺度によって構成されている。ここでは、そのことの妥当性を検証するために、人生キャリア・レディネス尺度（27項目）、職業キャリア・レディネス尺度（27項目）

それぞれに関して、大学生の男子・女子、そして短大生の3群別に、因子分析を行った。因子分析は、まず最初に相関行列を算出し、それを基に主因子解を求め、同様に Varimax 回転を施した。

(1) 人生キャリア・レディネスの因子分析結果  
人生キャリア・レディネス27項目の Varimax 回転後の因子負荷量を、〈表6〉に示す。

〈表6〉 人生キャリア・レディネスの因子分析結果 (Varimax 回転後)

項目 番号	男子大学生			女子大学生			短期大学生		
	第1因子	第2因子	第3因子	第1因子	第2因子	第3因子	第1因子	第2因子	第3因子
LCC1	.455	.308	.470	.427	.439	.280	.438	.342	.279
LCC2	.021	.238	.805	.122	.720	-.058	.042	.726	.162
LCC3	.507	.163	.526	.069	.304	.561	.550	.369	.176
LCC4	-.045	.566	.545	.579	.472	-.064	.036	.543	.373
LCC5	.152	.010	.756	-.033	.754	.092	.109	.746	-.054
LCC6	.239	.234	.747	.011	.733	.293	.365	.585	.041
LCC7	.335	.264	.590	.509	.456	.264	.365	.501	.369
LCC8	.488	.082	.502	.343	.325	.314	.367	.217	.214
LCC9	.465	.204	.654	.408	.492	.393	.559	.420	.298
LCA1	.416	.337	.216	.514	.126	.280	.321	.323	.197
LCA2	.641	.182	.254	.077	.047	.621	.637	.112	.171
LCA3	.662	.128	.065	.039	-.153	.617	.599	-.277	.099
LCA4	.738	.034	.085	.077	.169	.625	.451	.155	-.141
LCA5	.767	.174	.219	.207	.299	.546	.728	.173	-.015
LCA6	.336	.379	.078	.055	-.039	.559	.482	.003	.155
LCA7	.276	.512	.387	.346	.423	.234	.331	.503	.274
LCA8	.717	.169	.121	.264	.239	.526	.750	.051	-.066
LCA9	.504	.295	.352	.131	.162	.479	.647	.187	.136
LCP1	.102	.729	.388	.716	.341	.072	-.030	.507	.524
LCP2	.206	.714	.073	.696	-.073	.108	.098	.075	.657
LCP3	-.033	.655	.205	.733	.054	-.088	-.091	.144	.426
LCP4	.409	.589	.118	.710	.086	.211	.341	.078	.636
LCP5	.455	.499	.365	.561	.431	.202	.432	.368	.395
LCP6	.256	.656	.005	.419	-.073	.163	.259	-.127	.677
LCP7	.023	.593	.426	.604	.369	.038	-.091	.354	.486
LCP8	.332	.389	.464	.548	.231	.075	.208	.348	.452
LCP9	.248	.700	.098	.627	-.018	.146	.111	.141	.565
Σa <sup>2</sup>	10.67	2.21	1.80	8.04	2.35	1.83	7.64	2.45	1.65
Σa <sup>2</sup> /N	39.2	8.2	6.7	29.8	8.7	6.8	28.3	9.1	6.1
寄与率	72.5	15.2	12.4	65.8	19.2	15.0	65.1	20.9	14.0

#### ① 男子大学生について

第1因子は、「LCA5：これからの人生は自分で責任を自覚して送ろうと思う(.767)」、「LCA4：どんな生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める(.738)」、「LCA8：今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う(.717)」などに高い因子負荷量がみられることから、「自律性」を中心とした因子と解釈される。

第2因子は、「LCP1：希望する生き方を送るための具体的な計画を立てている(.729)」、「LCP2：自分は

将来どのような人生を送っているのか、わからない(.714)」、「LCP9：今希望している人生や生き方は、自分なりに実現できそうだと思う(.700)」などに高い因子負荷量が認められることより、「計画性」を中心とした因子と解釈される。

第3因子は、「LCC2：人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている(.805)」、「LCC5：どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読むことがある(.756)」、「LCC6：今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるよ

うにしている(.747)」などに高い因子負荷量がみられることから、「関心性」を中心とした因子と考えられる。

### ② 女子大学生について

第1因子は、「LCP3：自分の今後の人生は、だいたい想像できる(.733)」、「LCP1：希望する生き方を送るための具体的な計画を立てている(.716)」、「LCP4：どのような生き方をしたいか、まだわからない(.710)」などに高い負荷量が認められることより、展望性を中核とした「計画性」の因子と解釈される。

第2因子は、「LCC5：どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んだことがある(.754)」、「LCC6：今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている(.733)」、「LCC2：人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている(.720)」などに高い負荷量がみられることから、「関心性」を中心とした因子と考えられる。

第3因子は、「LCA4：どんな生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める(.725)」、「LCA2：人生をどう過ごすかは、他の人が考え始めるころに、自分も考えればいい(.621)」、「LCA3：これからの人生をどう過ごすかは、周囲の雰囲気にあわせて決めようと思う(.617)」などに高い因子負荷量がみられることから、「自律性」を中心とした因子と解釈される。

### ③ 短大生について

第1因子は、「LCA8：今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う(.750)」、「LCA5：これからの人生は自分で責任を自覚して送ろうと思う(.728)」、「LCA9：人生を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする(.647)」などに高い因子負荷量が認められることから、向上性を中核とした「自律性」の因子と解釈される。

第2因子は、「LCC5：どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んだことがある(.746)」、「LCC2：人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている(.726)」、「LCC6：今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている(.585)」などに高い因子負荷量がみられることから、「関心性」を中心とした因子と推察される。

第3因子は、「LCP6：今希望している生き方は、またすぐ変わるかもしれない(.677)」、「LCP2：自分は将来どのような人生を送っているのか、わからない(.657)」、「LCP4：どのような生き方をしたいか、まだわからない(.636)」などに高い負荷量が認められるので、「計画性」に関する因子と解釈される。

以上の結果から、人生キャリア・レディネス尺度で予備的に設定された下位尺度は、因子分析によって、

大学生の男子・女子、そして短大生いずれも、因子順序に差異があるものの共通して、上記の3因子に分類され、一応因子としての妥当性は得られたものと判断できよう。

### (2) 職業キャリア・レディネスの因子分析結果

〈表7〉は、職業キャリア・レディネス尺度の27項目の Varimax 回転後の因子負荷量を示したものである。人生キャリア・レディネスの場合と同様の方法で、高負荷の項目を中心にして、各々の因子を検討していくことにする。

#### ① 男子大学生について

第1因子は、「OCP2：自分は将来どのような職業に就いているのか、わからない(.780)」、「OCP4：どのような職業に就きたいか、まだわからない(.773)」、「OCP6：今希望している職業は、またすぐ変わるかもしれない(.718)」などに高い因子負荷量が認められることから、「計画性」を中心とした因子と解釈される。

第2因子は、「OCA5：職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う(.788)」、「OCA1：職業人になったら、自分から進んで積極的に仕事を行おうと思う(.761)」、「OCA9：職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい(.748)」などに高い負荷量がみられることから、「自律性」を中心とした因子と解釈される。

第3因子は、「OCC5：将来の職業や就職先について、いろいろ比較し検討している(.754)」、「OCC2：職業や就職先に関する記事には、よく目を通すようにしている(.747)」、「OCC4：希望する職業に就くにはどうすればよいか、調べたことがある(.610)」などに高い負荷量が認められることから、「関心性」を中心とした因子と考察される。

#### ② 女子大学生について

第1因子は、「OCC2：職業や就職先に関する記事には、よく目を通すようにしている(.747)」、「OCC5：将来の職業や就職先について、いろいろ比較し検討している(.712)」、「OCC9：職業選択や就職は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている(.678)」などに高い負荷量が認められることから、「関心性」を中心とした因子と考察される。

第2因子は、「OCA9：職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい(.767)」、「OCA5：職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う(.721)」、「OCA8：職業生活を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする(.721)」などに高い負荷量がみられることから、「自律性」を中心とした因子と解釈される。

第3因子は、「OCP2：自分は将来どのような職業に就いているのか、わからない(.739)」、「OCP4：どのような職業に就きたいか、まだわからない(.706)」

&lt;表7&gt; 職業キャリア・レディネスの因子分析結果 (Varimax 回転後)

項目 番号	男子大学生			女子大学生			短期大学生		
	第1因子	第2因子	第3因子	第1因子	第2因子	第3因子	第1因子	第2因子	第3因子
OCC1	.431	.378	.443	.460	.381	.166	.391	.362	.363
OCC2	.057	.195	.747	.747	-.006	-.159	.782	.027	.007
OCC3	.304	.592	.144	.333	.529	.086	.365	.399	.471
OCC4	.534	.012	.610	.562	.016	.330	.602	.139	.212
OCC5	.101	.069	.754	.712	.043	.049	.828	.037	.008
OCC6	.229	.441	.508	.520	.453	.030	.453	.327	.028
OCC7	.078	.307	.600	.443	.292	.342	.493	.421	.161
OCC8	.302	.424	.258	.352	.450	.131	.249	.390	.354
OCC9	.238	.497	.535	.678	.342	.210	.595	.412	.219
OCA1	.201	.761	.168	.127	.622	.191	.148	.725	.272
OCA2	.418	.334	.415	.498	.179	.372	.533	.208	.310
OCA3	.367	.212	.062	-.078	.201	.428	.021	.177	.414
OCA4	.141	.345	.268	.032	.289	.013	-.078	.594	-.022
OCA5	.098	.788	.148	.187	.721	-.060	.094	.790	.046
OCA6	.249	.583	.012	-.089	.550	.332	-.007	.405	.272
OCA7	.069	.671	.136	.121	.653	.177	.057	.712	.054
OCA8	.237	.711	.191	.046	.721	.128	.127	.705	.200
OCA9	.083	.748	.131	.032	.767	-.036	.307	.615	.025
OCP1	.656	.067	.479	.502	.111	.597	.509	.097	.388
OCP2	.780	.180	.060	.167	.046	.739	.112	.093	.705
OCP3	.673	.128	.006	.118	.072	.667	.174	.031	.437
OCP4	.773	.117	.207	.204	.019	.706	.180	.206	.705
OCP5	.606	.301	.324	.267	.430	.558	.280	.368	.552
OCP6	.718	.185	.010	.126	.061	.620	.084	-.072	.718
OCP7	.346	.216	.441	.517	.368	.081	.388	.345	.182
OCP8	.549	.029	.428	.607	-.026	.419	.698	-.064	.170
OCP9	.425	.082	.373	.646	.070	.187	.409	-.106	.300
Σa <sup>2</sup>	9.45	2.50	1.69	7.76	2.63	1.99	7.92	2.52	1.78
Σa <sup>2</sup> /N	35.0	9.3	6.3	28.7	9.8	7.4	29.4	9.3	6.6
寄与率	69.2	18.4	12.5	62.5	21.4	16.1	64.9	20.5	14.6

「OCP3：自分の将来の職業生活の様子は、だいたい想像できる(.667)」などに高い因子負荷量が認められることから、「計画性」を中心とした因子と解釈される。

### ③ 短大生について

第1因子は、「OCC5：将来の職業や就職先について、いろいろ比較し検討している(.828)」、「OCC2：職業や就職先に関する記事には、よく目を通すようにしている(.782)」、「OCC4：希望する職業に就くにはどうすればよいか、調べたことがある(.602)」などに高い負荷量が認められることから、「関心性」を中心とした因子と考察される。

第2因子は、「OCA5：職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う(.790)」、「OCA1：職業人になったら、自分から進んで積極的に仕

事を行おうと思う(.725)」、「OCA7：職場で難しい問題にぶつかっても、自分なりに克服していこうと思う(.712)」などに高い負荷量がみられることから、「自律性」を中心とした因子と解釈される。

第3因子は、「OCP6：今希望している職業は、またすぐ変わるかもしれない(.718)」、「OCP2：自分は将来どのような職業に就いているのか、わからない(.705)」、「OCP4：どのような職業に就きたいか、まだわからない(.705)」などに高い負荷量が認められることから、「計画性」を中心とした因子と解釈される。

以上のことから、人生キャリア・レディネス尺度と同様に、予備的に設定された下位尺度は、性別によって因子順序に差異があるものの、いずれも共通して、上記の3因子に分類されており、おおむね因子的妥当性は得られたといえる。



## 要約と今後の課題

大学生のキャリア成熟度を測定するために、キャリア・レディネス尺度（CRS）が作成された。本研究では、CRSについて、その信頼性および妥当性の検討を行った。その結果は、次のように要約できる。

① キャリア・レディネス尺度（CRS）の内的整合性を、項目水準および尺度水準で検討した結果、キャリア・レディネスを測定する下位尺度は、内的整合性の点で一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度であることが確認された。

② キャリア・レディネス尺度（CRS）の安定性について、再検査法により検討したところ、人生・職業いずれのキャリア・レディネス尺度も高い安定性係数が得られ、1回目の平均得点・標準偏差と2回目のそれとがほぼ近似していた。この結果から、CRSは、安定性の観点からも、信頼性の高い尺度であることが保証された。

③ 人生キャリア・レディネス尺度と職業キャリア・レディネス尺度に関して、主因子法による因子分析を施したところ、大学生の男子・女子、そして短大生で因子順位に差異がみられたものの、仮説的に設定された3つの態度特性とほぼ一致した3つの因子が抽出された。

以上の検討結果を総合化して考えると、大学生のキャリア成熟度を測定・評価することを目的として作成された「キャリア・レディネス尺度（CRS）」は、おおむね、信頼性および妥当性のある尺度であることが保証されたといえる。

今後は、キャリア・レディネス尺度（CRS）を用いて、大学生のキャリア成熟の形成過程に対して、どのような要因が、どのような形で影響を及ぼしているのか、すなわち、大学生のキャリア成熟の規定要因の分析を進めていくことが必要であると考えられる。また、大学生のキャリア成熟の形成過程は、現実的には、個人的変数と状況的変数が複雑に絡み合い影響していると予想される。したがって、キャリア成熟と個々の要因との関連を検討するだけでなく、複数の要因を同時に取り上げて、その促進力・抑制力を総合的かつ相対的に検討していくような、キャリア成熟への相対的規定力の分析が要請されよう。

## 引用・参考文献

- Crites, J.O. 1973 Theory & Research Handbook for the Career Maturity Inventory. McGraw-Hill.
- Gysbers, N.C. & Moore, E.J. 1975 Beyond Career Development. *Personel and Guidance J.* 53, 647-652.
- Herr, E.L. & Cramer, S.H. 1988 Career guidance and counseling through the life span: Systematic approaches. (3rd ed.) Boston: Scott, Foresman.
- King, S. 1989 Sex Differences in a Causal Model of Career Maturity. *J. of Counseling & Development*, 68, 208-215.
- 坂柳恒夫 1981 進路成熟の測定・評価と活用 中西信男・広井 甫（編）進路指導の心理と技術 福村出版.
- 坂柳恒夫 1990 進路指導におけるキャリア発達の理論 愛知教育大学研究報告第39輯, 141-155.
- 坂柳恒夫 1991 進路成熟の測定と研究課題 愛知教育大学教科教育センター研究報告第15号, 269-280.
- 坂柳恒夫 1992 中学生の進路成熟に関する縦断的研究 愛知教育大学教科教育センター研究報告第16号, 299-308.
- 坂柳恒夫 1993 高校生の進路成熟に関する縦断的研究 愛知教育大学教科教育センター研究報告第17号, 127-136.
- 坂柳恒夫・竹内登規夫 1985 進路成熟態度尺度（CMAS-3）の作成と項目分析 愛知教育大学研究報告第34輯, 213-230.
- 坂柳恒夫・竹内登規夫 1986 進路成熟態度尺度（CMAS-4）の信頼性および妥当性の検討 愛知教育大学研究報告第35輯, 169-182.
- Super, D.E. 1984 Career & life development. in Brown, D. & Brooks, L. (eds.) Career Choice & Development. Jossey-Bass.
- Super, D.E. 1986 Life-career roles: self-realization in work and leisure. in Hall, D.T. (ed.) Career development in organizations. Jossey-Bass.
- 竹内登規夫・坂柳恒夫 1982 進路成熟態度尺度（CMAS-1）の作成と項目分析 愛知教育大学研究報告第31輯, 193-210.
- 竹内登規夫・坂柳恒夫 1983 進路成熟態度尺度（CMAS-2）の作成とその分析 愛知教育大学研究報告第32輯, 193-208.
- 吉谷二郎 1990 生涯にわたるキャリア形成と職業指導 雇用問題研究会.

## &lt;Appendix 1&gt; 人生キャリア・レディネス尺度 (Life Career Readiness Scale)

領域	要素	略号	項目内容
関 心 性	志向性	LCC1	1. これからの人生や生き方について、とても関心を持っている。 10. 人生設計や生き方についての記事には、よく目を通すようにしている。 R19. 人生設計や生き方にはあまり関心がない。
		LCC2	
		LCC3	
性	探索性	LCC4	2. 希望する人生を送るにはどうすればよいか、調べたことがある。 11. どのような人生・生き方があるか、本や新聞などで読んだことがある。 20. 今後の人生を充実させるために参考となる話に、耳を傾けるようにしている。
		LCC5	
		LCC6	
自 律 性	一体性	LCC7	3. どのような生き方が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。 R12. 自分は何のために生きていくのか、真剣に考えたことがない。 21. 将来の生き方は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。
		LCC8	
		LCC9	
計 画 性	主体性	LCA1	4. これからの人生は、自分の力で切り開いていくことができる。 R13. 人生をどう過ごすかは、他の人が考え始めるころに、自分も考えればいい。 R22. これからの人生をどう過ごすかは、周囲の雰囲気にあわせて決めようと思う。
		LCA2	
		LCA3	
性	責任性	LCA4	5. どのような生き方をしていけばよいかは、最終的には自分自身の責任で決める。 14. これからの人生は、自分で責任を自覚して送ろうと思う。 R23. まだしばらくの間は、責任のある生活はしたくない。
		LCA5	
		LCA6	
計 画 性	向上性	LCA7	6. 希望する人生を送れるように、日頃から自分を向上させるよう心掛けている。 15. 今後の人生で困難なことに突き当たっても、自分なりに克服していこうと思う。 24. 人生を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。
		LCA8	
		LCA9	
性	展望性	LCP1	7. 希望する生き方を送るための具体的な計画を立てている。 R16. 自分は将来どのような人生を送っているか、わからない。 25. 自分の今後の人生は、だいたい想像できる。
		LCP2	
		LCP3	
性	目標性	LCP4	R 8. どのような生き方をしたいか、まだわからない。 17. これから先どのような人間になりたいのか、自分なりの目標をもっている。 R26. 今希望している生き方は、またすぐに変わるかもしれない。
		LCP5	
		LCP6	
性	現実性	LCP7	9. 充実した人生を送るための計画に沿って、すでに取り組んでいることがある。 18. これからの人生設計は、自分の個性と社会状況の両面から十分考えている。 27. 今希望している人生や生き方は、自分なりに実現できそうだと思う。
		LCP8	
		LCP9	

(注) Rは、逆転項目を示している。

## &lt;Appendix 2&gt; 職業キャリア・レディネス尺度 (Occupational Career Readiness Scale)

領域	要素	略号	項目内容
関 心 性	志向性	OCC1	1. 将来の職業や就職について、とても関心を持っている。 10. 職業や就職に関する記事には、よく目を通すようにしている。 R19. 将来の職業生活をどう過ごすかは、あまり関心がない。
		OCC2	
		OCC3	
性	探索性	OCC4	2. 希望する職業に就くにはどうすればよいか、調べたことがある。 11. 将来の職業や就職先について、いろいろ比較検討している。 20. 将来、充実した職業生活を送るために参考となる話は、注意して聞いている。
		OCC5	
		OCC6	
自 律 性	一体性	OCC7	3. どのような職業が自分に向いているのか、真剣に考えたことがある。 R12. 自分は何のために働くのか、真剣に考えたことがない。 21. 職業選択や就職は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている。
		OCC8	
		OCC9	
計 画 性	主体性	OCA1	4. 職業人になったら、自分から進んで積極的に仕事を行おうと思う。 13. 就職の準備は、他の人から言われなくても自主的に進めることができる。 22. 職業の選択・決定では周囲の雰囲気に流されることはない。
		OCA2	
		OCA3	
性	責任性	OCA4	5. 充実した職業生活を送れないのは、自分自身の責任が大きいと思う。 14. 職業人になってからは、責任を自覚して仕事に取り組もうと思う。 R23. 職業人になっても、責任の重い仕事はやりたくない。
		OCA5	
		OCA6	
計 画 性	向上性	OCA7	6. 職場で難しい問題にぶつかっても、自分なりに克服していこうと思う。 15. 職業生活を充実させるためには、面倒なことでも積極的にチャレンジする。 24. 職業生活を通して、さらに自分自身を向上させたい。
		OCA8	
		OCA9	
性	展望性	OCP1	7. 希望する職業に就くための具体的な計画を立てている。 R16. 自分は将来どのような職業についているか、わからない。 25. 自分の将来の職業生活の様子は、だいたい想像できる。
		OCP2	
		OCP3	
性	目標性	OCP4	R 8. どのような職業に就きたいか、まだわからない。 17. どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標をもっている。 R26. 今希望している職業は、またすぐに変わるかもしれない。
		OCP5	
		OCP6	
性	現実性	OCP7	9. 職業選択や就職は、自分の個性と就職機会の両面から十分考えている。 18. すでに計画に従って就職試験のための勉強をしている。 R27. 就きたい職業は決めたが、それに向けての積極的な努力は特にしていない。
		OCP8	
		OCP9	

(注) Rは、逆転項目を示している。